

創業来の土木工事領域をより深め、固める  
関連領域、新規領域へも挑戦、実績を重ねて

株式会社 清翔産業（代表取締役）  
まつ かげ 松蔭 忠和





# 伝統ある土木工事で、社会インフラ整備をお手伝い 民間宅地造成やメガソーラー向け山林開拓にも対応 貨物輸送、車両整備・点検サービス事業へも厚いご支持

## 松蔭組開業、 やがて法人組織・松蔭産業へ

10代後半を迎えようとしていた私は、土木業の親方を務める父のもと、修行生活に入ることとなりました。やっつけけるのかどうか、自信を持っていない部分もあったのですが、実際に仕

事と向き合ってみると実に面白く、やりがい感も大きい。進むべき道を発見できた自分が、そこにいました。ほどなくして個人営業の土木業

「松蔭組」が、京都郡<sup>かんた</sup>苅田町に立ち上げられます。要するに、土木が家業になったわけです。

松蔭組には、いくつかのチャネルを通じて発注が舞い込んできます。公共工事であれば、民間工事も。父の腕にはそれだけ、信頼が寄せられていたのでしょ。う。ほぼすべてが下請け仕事でしたが、当時はまだ、それなりの収益を確保できていたようです。しかし、重機買入れのコスト負担などもあり、財務面などに苦しい状況も見受けられました。

開業から5〜6年も経った頃に、松蔭組から法人化。松蔭工業(株)に社名変更して父が代表取締役に就任し私が専務になり、父からの(暗黙の)了

解も取り付け、現場および内部業務全般を取り仕切るようになります。20代半ばにして、実質的な二代目の役を担うようになったのです。

それから2〜3年を経た昭和59年、開業10周年を迎えるにあたって、一つの大きな決断を下します。私は自分の会社を持つことを決めました。社名は(有)松蔭産業として、本社は行橋市大字入覚へ(平成18年には同市大字中津熊Ⅱ現在地へと移転)。会社設立からほどなく、一般建設業の許可も取得。より強力な業務遂行体制のもと、今後の事業展開に臨んでいくことになりました。

## 土木工事全般へ、 事業領域拡充

松蔭産業では、基本的経営方針として、創業来の土木工事領域をより



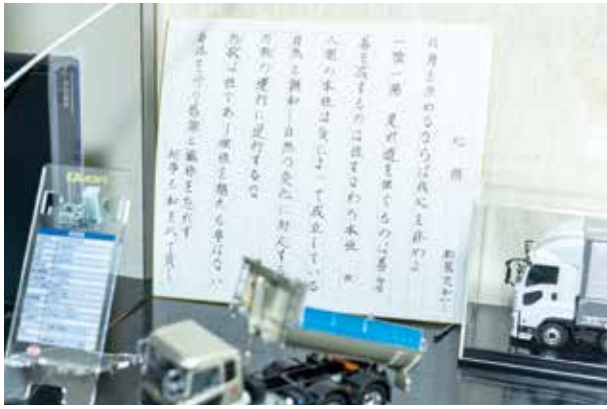
深めていく方向性を打ち出し、実行に努めてきました。下請け仕事中心とはいえ、土木プロフェッショナルとしてのこだわりが凝縮された仕事ぶりに対しては、お客様はもとより、社会各方面からも高いご評価が…。そのこだわりは、後に発足する(株)清翔産業・建設事業部門へも引き継がれていきます。今日まで都合約40年間におよび土木事業展開を通じ、築き上げてきた工事実績につき、具体的事例とともに紹介しましょう。

まず、公共事業工事です。道路や

橋など国・自治体による社会インフラの整備を、土木技術面からお手伝い。道路関係では、経年劣化で傷んだ舗装の修復や、排水管理設後の道路復旧などにもお応えしてきました。

続いて、上下水道工事です。自治体所管の上下水道の構築・補修工事を主体に、工用水道を対象にした配水、浄水、排水のための諸設備・施設の築造などにも携わらせていただきました。

次に、造成工事。農地や荒地などを主対象とする一般的な宅地造成に加えて、メガソーラー（大規模太陽光発電）設備向けの山林開拓など、



特殊な造成分野へも、人材・機材を提供させていただきました。

加えて、土木関連事業として乗り出した碎石・真砂土販売、産業廃棄物収集運搬、土木建設資材・緑化資材販売の各事業に対しても、厚いご支持をお寄せいただきました。

### （株）清翔産業へ衣替え、 新規事業も軌道に

会社は松蔭工業（株）と（有）松蔭産業と、私の息子の会社（有）総合商社日猷を合併し、（株）清翔産業となり、私が代表取締役（父が取締役会長として、平成25年に生まれ変わりました。松蔭産業としての30年の間に、一定の事業基盤を築くことができました。この先のいつその飛躍へ、新たな心構えをもつて取り組んでいこう。私のそんな心境が、清と翔の2文字に映し出されているのではないのでしょうか。

翌26年、新たに輸送事業へと進出。知り合い（現・部門責任者）から、「やってみませんか」と提案をいただいたのが、そもその始まりでした。自動車部品の近場輸送をはじめ、一般貨物輸送、さらには建設重機など



の回送にも対応できる態勢を整え、お客様を取り込んできました。

一方の土木関連事業も相変わらず、堅調に推移。清翔産業トータルとしての飛躍を実感しつつあったまさにその頃、新型コロナ禍が襲来。両事業とも深刻なダメージをこうむってしまいます。とりわけ苦心させられたのが、資金繰り問題でした。公的支援に頼り切るわけにもいかず、個人的なルートも辿つての調達も。何とか乗り切つてこれたのは、幸いでした。

コロナ禍収束にめどが立ちはじめた令和4年、新たに整備事業へと乗り出します。「100台近く保有する車両の定期点検、保守整備、車検を外に出しているのは、コスト的にもつたいないし、納期対応面にも問題があるのではないか」という声が社内からあがっていたのを受け、検討。外部からの車両なども受け入れる保守点検サービスとして事業化してしまつたらどうか。そんな着想を具現化したのが、この事業です。ディーラー修理工場にも引けを取らない設備を整え、熟練の専任整備士たちによつて正確・迅速なサービスを提供。ご利用の皆さまへ、ご満足をお届けしています。今後における事業展開

## 事業家目線で これからを見つめる

において、一つの柱に育っていくことが期待されます。



永年にわたり代表取締役を担ってきた私ですが、実は、自身を「社長」と認識したことはありません。経営を引っ張っていくべき立場にあることは重々、承知しています。ですが問題は、引っ張っていくやり方です。社内には上下関係を意識させ、消極的姿勢を強いがちな「社長」目線ではなく、企業の健全発展・永續、雇用の維持と

いった本質的課題に迫ろうとする「事業家」目線をもって取り組むべき、というのが私なりの考え方なのです。だからこそ、いかにも「社長」らしい「社長」には、なりたくないというわけです。

土木部門において、かねてより打ち出されてきた事業拡大施策の数々も、あるいは比較的近年になってからの輸送事業・整備事業への進出施策も、「事業家」目線からの必要性・重要性を捉えたうえで、実施されてきました。

さて、今後における事業展開・経営のあり方についてです。現在、当社では、部門制の仕組みをとっていますが（4部門：建設、輸送、重機回送、整備）、将来的には、部門分離・独立採算制導入もあり得るでしょう。また、事業環境の変化しだいでは、部門統合・廃止の検討も必要になってくるかもしれません。

そして実は、新分野へ挑戦してみないかという案件が膨らんでいます。具体的な進展があれば、きっと、私の「事業家」魂に火が灯されることでしょう。あと2〜3年のうちに70代を迎えますが、もうしばらくの間、頑張りたいと思います。



### 松蔭忠和 まつかけ ただかず

昭和31年生まれ。福岡県京都市郡苅田町出身。土木の親方を務める父のもとで修行生活へ。同50年、松蔭組開業に伴い、家業入り。数年後、現場・内部業務全般を取り仕切る立場に。同59年、(有)松蔭産業への組織替えに着手。その後、代表取締役として正式就任。平成25年、(株)清翔産業へと改組・改称。引き続き、代表取締役を務める

創業 昭和50年  
設立 昭和59年  
事業内容 公共事業工事、上下水道工事、造成工事、碎石・真砂土販売、建設資材販売、産業廃棄物収集運搬、一般貨物運送、重機回送、自動車整備・点検サービス  
所在地 〒824-0063  
福岡県行橋市大字中津熊328-12  
電話 0930-25-1313  
資本金 3000万円  
従業員数 約70名